



わかやま

No.6 1

和歌山県精神保健福祉センター 2014年11月

和歌山県男女共同参画センター
所長 山中 浩子

性暴力救援センター『わかやまmine（マイン）』の取組について

和歌山県では、平成25年7月、県立医科大学附属病院内に、性暴力被害を受けた女性をワンストップで支援する総合相談窓口『わかやまマイン』を開設しました。県男女共同参画センターがその運営にあたり、女性支援員が常駐しています。被害者からの相談を受け、緊急避妊や性感染症検査など医療行為が必要な場合は、県が医療費を負担して産婦人科を受診、また、心のケアや刑事手続きの支援、児童相談所・女性相談所・精神保健福祉センターなどの専門機関による支援につなぐなど、被害者の希望に応じたサポートを行っています。

県内の強姦・強制わいせつの認知件数は、平成25年で67件ですが、内閣府の調査では、性被害にあって警察に相談した人の割合はわずか3.7%、誰にも相談しなかった人が67.9%という結果となっています。誰にも相談できず、警察にも届けることができなければ、繰り返し被害にあたり被害もより深刻になる恐れがあります。

『わかやまマイン』への相談件数は徐々に増えてきており、相談内容で一番多いのが「子どもへの性的虐待」で約3割、次に「強姦」「強制わいせつ」「配偶者や同居中の交際相手からの性暴力」と続きます。また、被害者の年齢は未成年が多く半数を占め、加害者は、親や兄弟、夫や恋人、先輩や上司など、顔見知りが多いのが特徴です。『わかやまマイン』が病院内にあるため、緊急避妊など医療支援が中心と思われがちですが、性的虐待を受けた子どもへの対応とその家族の支援、DVの中でも最も決定的なダメージとなる性暴力を受けた夫婦間の対応、何年も前に受けた性暴力被害経験がトラウマとなり傷ついている被害者への対応など、性暴力被害者の支援といっても様々な側面があります。

性犯罪は、女性に対する暴力の中でも、最も女性の人権を踏みにじる、決して許されない行為であり、被害者を身体的に傷つけるのみならず、その心に深い傷を負わせるものです。他の犯罪に比べて、特に性暴力の被害者はPTSDを発症しやすく、被害者がPTSDを経験する率は40～80%とも言われています。支援にあたっては、性暴力被害者に、打ち明けたことを後悔させたり、被害に遭った自分を責めてしまうといった二次的被害を与えないように十分に配慮し、安心・安全な場づくりに努めています。

『わかやまマイン』を開設して1年4ヶ月がたちますが、個人からの相談だけでなく、最近では、福祉関係機関からの相談案件も増えてきております。今後とも、色々な機関と連携を更に密にして、被害者支援にあたりたいと考えておりますので、ご協力よろしくお願いいたします。

もくじ

- P1 性暴力救援センター『わかやまmine（マイン）』の取組について
- P2 シリーズセンター長だより／命をまもる・生きるを支えるメッセージの募集
- P3 わかやまこころのフェスティバル2014／表彰式／グループ活動紹介
- P4 開催報告／講演会開催のお知らせ
- P5 和歌山メンタルヘルス／開催報告／表彰／精神障害者ソフトバレーボール大会結果
- P6 はーとふるネットワーク／研修会のお知らせ／編集後記

和歌山県精神保健福祉センター
〒640-8319 和歌山市手平二丁目1番2号 県民交流プラザ“和歌山ビッグ愛”2階
☎ (073) 435-5194 FAX (073) 435-5193



シリーズ センター長たより②⑩

和歌山県精神保健福祉センター所長 小野 善郎

サイン会

新刊書の発売を記念してサイン会をしました。今までも本を出すたびに「出版記念パーティー」をしたいなあと思ってきましたが、誰も動いてくれず、かといって自分で企画するのも恥ずかしいので、これまで一度もしたことがありませんでした。今回は軽いノリで「サイン会ができれば良いよね」と言っていたら、書店と出版社で話がまとまり現実のものになってしまいました。とはいえ、やっぱりちょっと照れくさいので、和歌山ではなく、紀伊國屋書店ニューヨーク店で11月2日（土）に「小野善郎 Talk & Signing」をしました。急な企画で十分に広報ができず、当日の集客は今ひとつでしたが、かつて大江健三郎が座った場所でサイン会ができてとても幸せでした。

肝心の新刊書についても少し宣伝しておきます。今回はカナダの心理学者と心療内科医が書いた思春期の子育て本の翻訳で、『思春期の親子関係を取り戻す一子どもの心を引き寄せる「愛着脳」』という題名で福村出版から発売しました。北米ではかなり売れた本で、ニューヨークで日本人の子育て支援をしている看護師・助産師の関久美子さんと一緒に翻訳したこともあって、ニューヨークでのサイン会ということになりました。思春期になると子どもは親よりも友だちが大切になり、親子関係が不安定になります。この時期の親子関係をどうするかがわかりやすく書かれています。まさに思春期の「育児書」として、多くの皆様にご一読いただければと思っています。残念ながら国内でのサイン会の予定はありませんが、センターにお立ち寄りいただければいつでもサインはさせていただきます。



「第4回 命をまもる・生きるを支えるメッセージ」募集!!

普段の生活の中で、命の尊さについて感動したことなどをメッセージにして、こころの健康や自殺予防について考えてみませんか。

1. 内容

(1) 対象者

県内に在住、または県内に通勤・通学している方

(2) 規格

- ① 命の大切さを伝えるメッセージであれば内容は自由です。
- ② 20文字程度で表現してください。
- ③ 応募は未発表のもので、お一人1点までとします。

(3) 募集期間

平成26年12月1日(月)～平成27年1月15日(木)

(4) 応募方法

作品に氏名(ふりがな)、性別、年齢(学年)、住所、学校名(勤務先)、電話番号をご記入の上、下記の「命をまもる・生きるを支えるメッセージ」係あてにご応募ください。

(ア) 郵送の場合

〒640-8319

和歌山市手平2丁目1-2ビッグ愛2階
和歌山県精神保健福祉センター

(イ) FAXの場合 073(435)5193

(ウ) メールの場合

※タイトルに「命をまもる・生きるを支えるメッセージ」とご記入ください。

メールアドレス e0503011@pref.wakayama.lg.jp

2. 賞入選

10名程度(賞状・副賞5千円相当の図書カード)
※入選された方には平成27年2月上旬に文書にて連絡します。

3. 表彰

平成27年3月下旬にて入選者への表彰式を行う予定です。



わかやまこころのフェスタ 2014

11月15日(土)和歌山ビッグホエールでこころのフェスタ(りいぶるフェスタと同時開催)を開催しました。今年から1日開催となりましたが、センターでは引き続き11月16日に和歌山市中央コミュニティセンターにおいて「こころの講演会」を行いました。

平成26年度和歌山県精神保健福祉協会長表彰

永年、精神保健福祉の推進に貢献された方、また精神障害者の社会復帰や自立支援に功績があった方々が協会長表彰を受けられました。



「ほっとする 笑顔つながる こころの絵」入賞者表彰

見る人がほっとして思わず笑みがこぼれるような絵をとおしてこころの健康を考える機会にするために県民の皆さんから絵の募集をしました。

最優秀賞	和田桃佳 (明和中学校2年)
優秀賞	倉本紗綾 (由良中学校2年) 嶋本節子 (和歌山市)
入選	木村亮太 (絵画等教室ほっと30Jr-1) 門阪歩実 (紀伊小学校6年) 井上心月 (吹上小学校3年) 山崎 鈴 (岩出第二中学校1年) 坂本末紗希 (明和中学校2年)

永年勤続表彰	
岫下清秀	国保日高総合病院
嶋津 覚	県立こころの医療センター
上西崇弘	紀南こころの医療センター
特別功労表彰	
蕨野隆久	障害者地域生活相談センター
辻中千秋	NPO法人和歌山県断酒連合会
藤本敏子	精神保健福祉関係事業ボランティア
久保悦子	NPO法人ふれあい作業所



♪グループ活動紹介♪

今年、麦の郷ソーシャルファームピネルで働く精神に障害のある仲間が集まって結成したバンド、クラウドティハーツがロックンロールな演奏と歌声を披露してくれました。

こころの講演会

よく生き よく笑い よき死と出会う

上智大学で30年にわたり「死の哲学」を教え、日本に死の教育とホスピスを広めた死生学の第一人者、アルフォンス・デーケン名誉教授によき死とよき生に出会うための考え方についてご講演いただきました。

誰にも等しく訪れる「死」を身近なテーマとして自覚し、その現実を受け入れるための心構えを学習することが、誰にとっても必要である。それは決して、消極的な意味ではなく、最後までよりよく、人間らしく生きることを目指すものであることなどを、ユーモアを交え、わかりやすくお話されました。



講演会開催のお知らせ

日 時：平成26年12月13日（土）
場 所：精神保健福祉センター プレイルーム
定 員：20名
対 象：自死遺族やその周囲の方、また、自死遺族を援助している方
申込み：精神保健福祉センター
TEL(073)435-5194 FAX(073)435-5193

■ プログラム ■

11:00～12:30

講演：大切な方を自死でなくした悲しみからの回復



講師：佐藤 まどか氏
（カウンセリングスペース『リヴ』代表・「親の自死を語る会」代表）
12:30～13:00
クリスマス いやしの音楽会
演奏：ユメグミ氏（クロマティックハーモニカ）



■ 終了後 わかちあいの会 を開催します
13:30～15:30

対象：大切な人(家族・知人・友人)を自死で亡くした方

♥ ひきこもりをテーマに講演会と交流会を開催 ♥

定 員：30名
対 象：ひきこもりの問題について関心のある方（家族や本人、支援者など）
申込み：主催 和歌山県精神保健福祉センター
TEL(073)435-5194 FAX(073)435-5193



日 時	講演会	講 師	交流会
平成26年12月18日(木) 13:30～15:30	ひきこもりの理解と対応	小野 善郎 和歌山県精神保健福祉センター	なし
平成27年 1月23日(金) 13:30～15:30	ひきこもりからの回復 ーひきこもり経験者からのメッセージー	ひきこもり経験者2名 コーディネーター 南 芳樹 南紀若者サポートステーション	14:30 ～ 15:30
平成27年 2月20日(金) 10:00～12:00	子どものひきこもりに向き合って ー子どものひきこもりを経験した 母親からのメッセージー	子どものひきこもりを経験した方	11:00 ～ 12:00

場 所：御坊保健所 別館 大会議室

日 時	講演会	講 師	交流会
平成27年 2月19日(木) 13:30～15:30	ひきこもりからの回復 ーひきこもり経験者からのメッセージー	ひきこもり経験者2名 コーディネーター 南 芳樹 南紀若者サポートステーション	なし

場 所：上富田町文化会館

※詳細はお問い合わせ下さい。

開催報告

【依存症に関する講演会】

H26年9月13日(土)、田辺市民総合センターにて、こころの相談室「リカバリー」代表の吉岡隆氏に講演をしていただきました。

援助職向けに行った「依存症者への支援」というテーマの講演では、共依存に関する説明があり、援助職者自身が共依存症になり、行き過ぎた当事者支援行動をしていないかを注意する必要があることをお話されていました。事例検討も行いました。参加者は12名でした。

一般県民向けに行った「知ってますか？依存症」というテーマの講演では、依存症の種類やメカニズム、依存症から回復するための方法の説明があり、「その日1日をクリーンで過ごす」ということを目標に、1日でも多く再使用しない日を作ることが重要であるとお話されていました。参加者は42名でした。

【災害避難所でのストレスケア研修会】

H26年11月10日(月)、上富田文化会館にて、

国内外の被災地で被災者支援に携わっている臨床心理士の久保田智之氏に講義をしていただきました。最初に、被災地では想定外のことが起こるため、避難所で支援に携わる人には「臨機応変力」が求められ、「場を読む力(被災者がどういう状況にあるか理解する)」「土台となる知識(サイコロジカルファーストエイド:PFA)」に加え、「想定どおりにいかないという心構え」が必要との説明がありました。被災者の状況を理解するために参加者でグループを作っての意見交換や、PFAについての講義、避難所でのストレスマネジメントワークとして活用できる手遊びや呼吸法の実技講習を通じ、避難所でのケアについて学びました。

行政機関の対人援助職や防災担当者、高齢者福祉施設等職員を中心に35名の参加がありました。

★PFA・・・被災者を「傷つけない」という原則に基づき、被災地で実際に役立つ心理的社会的な対応方法をまとめたもの。世界的に推奨されている。被災者の回復力(レジリエンス)を引き出し、回復を支えるための支援をすることを目的としている。

平成26年度日本精神保健福祉連盟会長表彰

10月31日、徳島県で開催された第62回精神保健福祉全国大会において、多年精神保健福祉事業の発展に寄与し、その功績が顕著である者として、県立こころの医療センター副院長 生駒芳久先生が連盟協会会長表彰を受賞されました。おめでとうございます。

第11回 精神障害者ソフトバレーボール和歌山県大会



11月12日 和歌山ビッグホエールにて参加7チームの選手、役員93名と、協力団体、一般ボランティア30名が集い、今年もファイト溢れるプレーを繰り広げました。決勝戦はブラックハーツ(県立こころの医療センター)とひだかファイターズ(ワークステーションひだか)が熱戦の末、ブラックハーツが昨年に続いて優勝を収めました。



☆参加チームと成績☆

👑 優勝 👑

ブラックハーツ(県立こころの医療センターテイケア)

準優勝

ひだかファイターズ(ワークステーションひだか)

3位

GO!!GO!!さくら(地域活動支援センター櫻)

4位

Day♡Dro(和歌山市保健所)

DREAM NOAPS(国保野上厚生総合病院)

やおきの風2014(社会福祉法人 やおき福祉会 ゆうあいホーム)

ちかつ(御坊・日高地域活動支援センター)



精神保健福祉の第一線で働く関係スタッフの紹介コーナーです。
今回は、田辺市教育研究所スクールソーシャルワーカー 山本 隼太さんです。

はーとふるネットワーク



—スクールソーシャルワーカーの役割とは何ですか？ スクールカウンセラーとの違いは？

子どもの抱える問題は家庭の経済的なことやインターネットを利用したいじめ、発達の問題、それらが関わった不登校など複雑に絡み合い学校だけで対応するには難しいのが現状です。そこで役所や児童相談所、病院など関係機関が学校とつながりチームとなって一人の子どもの対応を一緒に考える必要があります。様々な視点を持った人達がチームを組むことによって多角的に問題を捉え、それぞれの専門性を活かし柔軟な対応を考えること、また担任の先生・学校による問題の抱え込みを減らし、負担を軽減することも目的です。

そのための橋渡し役がスクールソーシャルワーカーです。関係機関との情報共有やケース会議が円滑に進むよう潤滑油の役割を果たします。

スクールカウンセラーとの違いは基本的にはスクールカウンセラーは心理の視点で子どもや保護者、先生の内側(心理面)に働きかけるのに対して、スクールソーシャルワーカーは福祉の視点を持って子どもの外側(環境)に働きかけるのが特徴です。

—日本ではまだ新しい制度だと思いますが、課題はありますか？

地域によって差はありますが、スクールソーシャ

ルワーカーは雇用形態が不安定なところが多く、継続するのが難しいことが課題の一つにあります。私も現在週の半分以上は別の仕事(田辺市の適応指導教室の指導員)に就いています。またスクールソーシャルワーカーの認知度が低く、先生だけでなく関係機関や保護者の方々にどのように知ってもらえるかもこれからの課題だと思います。

—今後の抱負を教えてください。

より多くの人に知ってもらいスクールソーシャルワーカーという仕事が確立するよう動いていきたいです。そのために知識や経験を積み重ね、職人のようなスクールソーシャルワーカーを目指します。そして一人でも多くの子が楽しい生活が送れる手助けが出来たらと思っています。

—次の方のご紹介をお願いします。

日頃からお世話になっている田辺市障害児・者相談支援センターの『ゆめふる』から石神慎太郎さんをご紹介します。今回も紹介する人に困ったのですが『ゆめふる』に相談すると快く引き受けていただきました。田辺市で障害関連の相談＝『ゆめふる』というくらいいつも頼っています。それでは石神さんよろしくをお願いします。

研修会のお知らせ

変わる事を支援する —動機づけ面接法を学ぶ—

講師：医療法人社団翠会 成増厚生病院

診療部長 後藤 恵 氏

日時：平成26年12月19日(金)

13:30～16:00(受付13:00～)

場所：県民交流プラザ和歌山ビッグ愛801会議室

対象：保健・医療・福祉・司法・教育機関等で相談を受ける方

費用：無料

定員：50名(先着順)



パーソナリティ障害の理解と対応について

講師 成田心理療法研究室

室長 成田 義弘 氏

日時 平成27年1月16日(金)

14:00～16:00

場所 県民交流プラザ和歌山ビッグ愛

りいぶるA会議室

対象 保健・医療・福祉・司法・教育等で相談を受ける方

費用 無料

定員 80名(先着順)



編集後記

アルフォンス・デーケン先生が「死」と「ユーモア」が深い関係があるということをお話されました。日本では死を前に笑いなど不謹慎と言われるでしょう。ユーモアがあれば死に直面した時に過剰な恐怖や不安を和らげ、怒りの感情を鎮める。親しい人との別れの後の悲嘆のプロセスにおいても笑いを再発見することは立ち直りの第一歩になると言います。ユーモアとは「にもかかわらず」笑うこと。ドイツの有名な定義だそうです。